

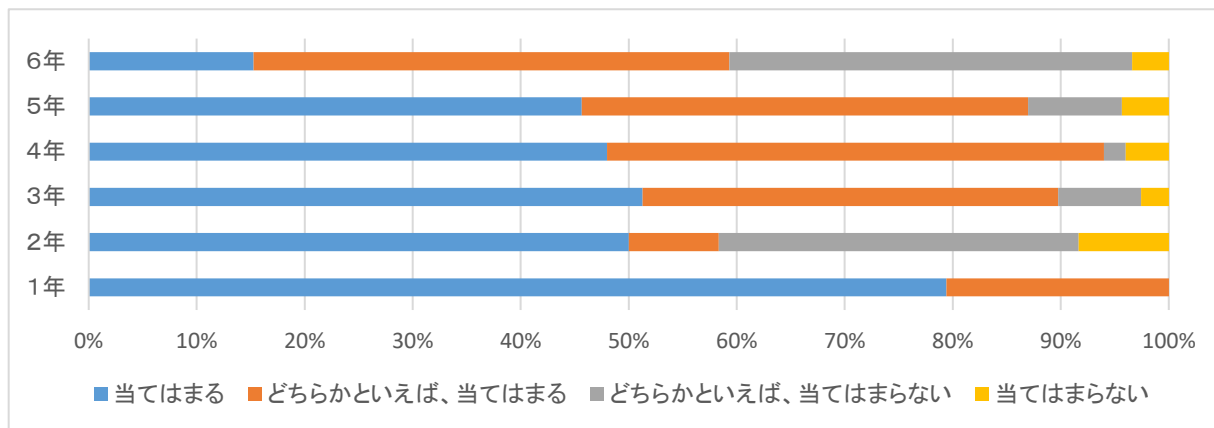
概要

益子町では、町内の全小学校にて教育課程特例校として、小学校第1・2学年に「外国語活動」を設置する特別の教育課程を編成しています。低学年では、体を動かす活動を中心に、英語を楽しく慣れ親しむ活動ができるよう単元を構成し、思いや考えを伝えるコミュニケーション活動や英語による読み聞かせ等の活動を取り入れています。

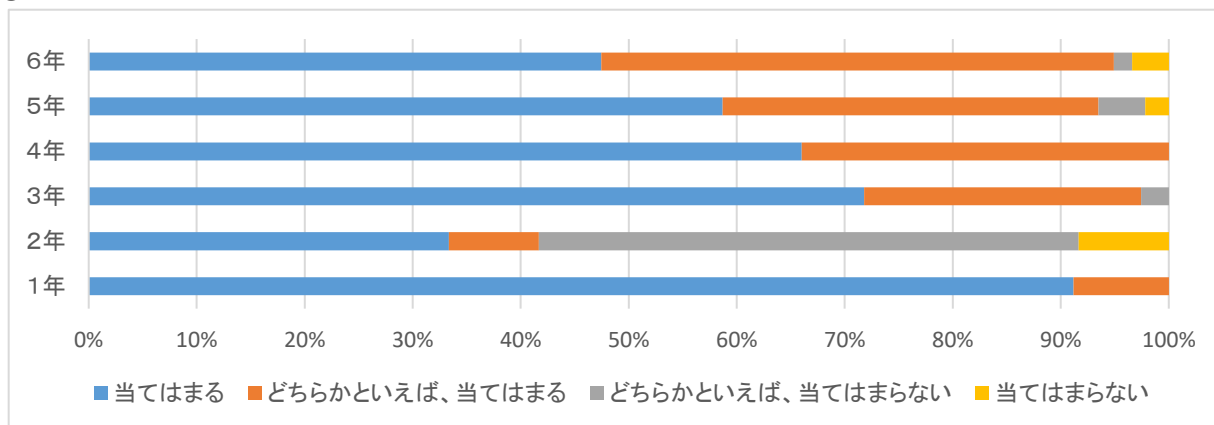
1 七井小学校児童アンケート結果(令和4年12月実施)

(1)児童の意欲について

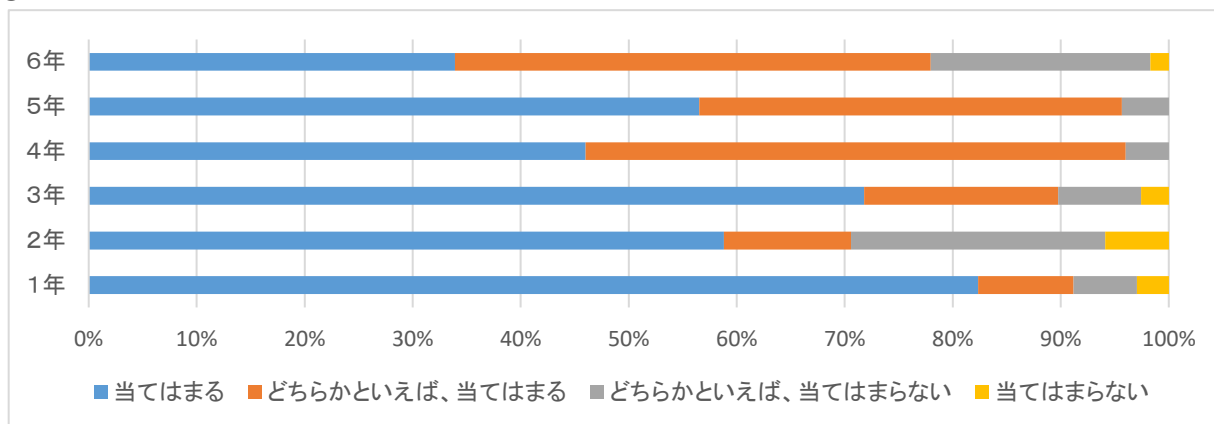
①外国語活動・外国語科の授業は好きである



②外国語活動・外国語科の授業に進んで参加している

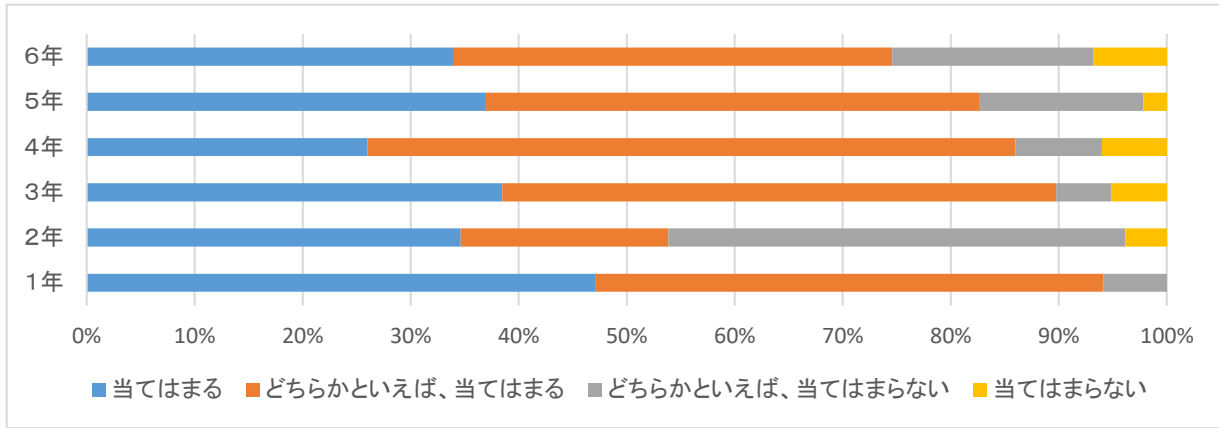


③外国語活動・外国語科の授業で、先生や友達とのコミュニケーションは楽しい

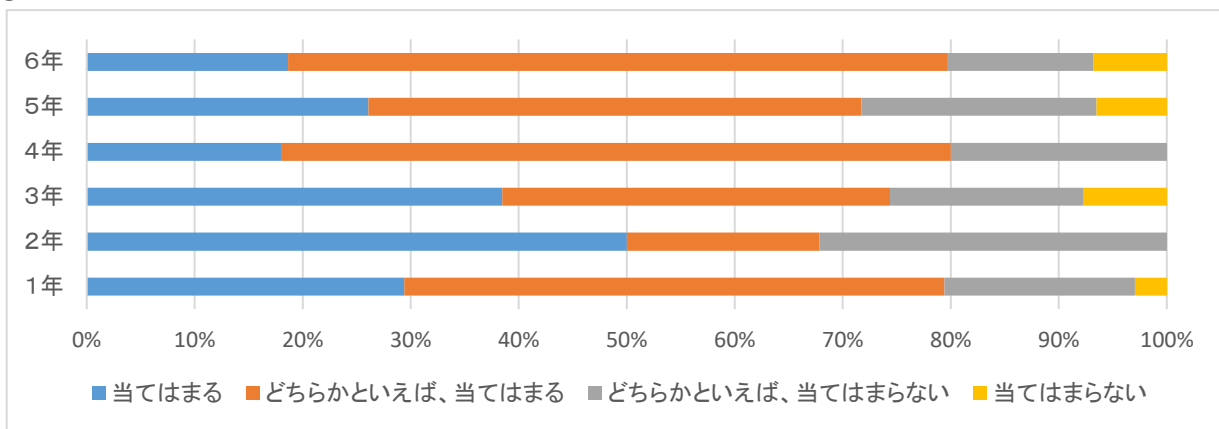


(2) 児童の英語力やコミュニケーション力について

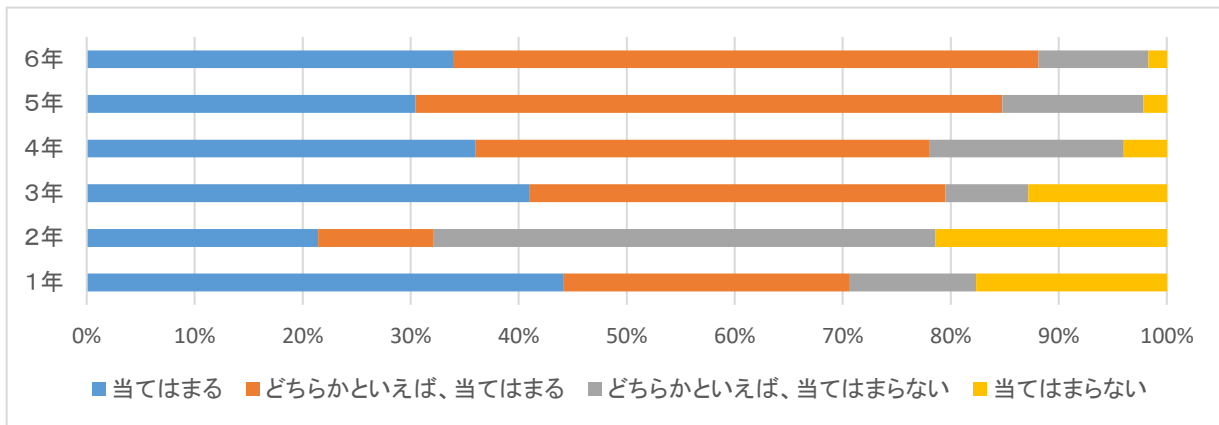
① 授業で、英語専科や担任の先生、友達が使う英語の意味がわかる



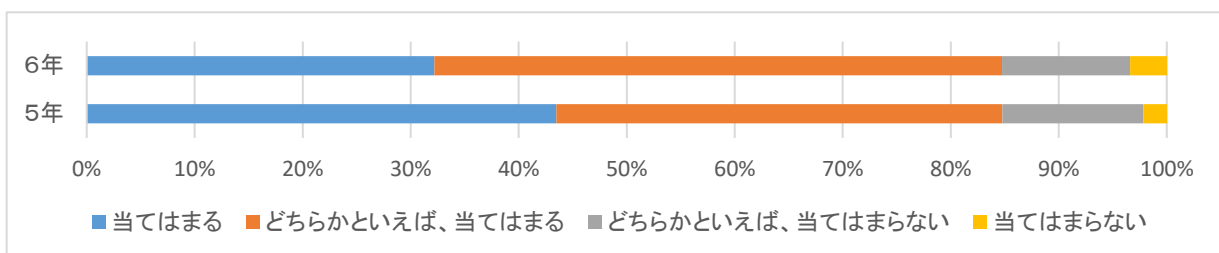
② 授業で、ALTが使う英語の意味がわかる



③ 友達に英語を使って自分の考えを伝えることができる

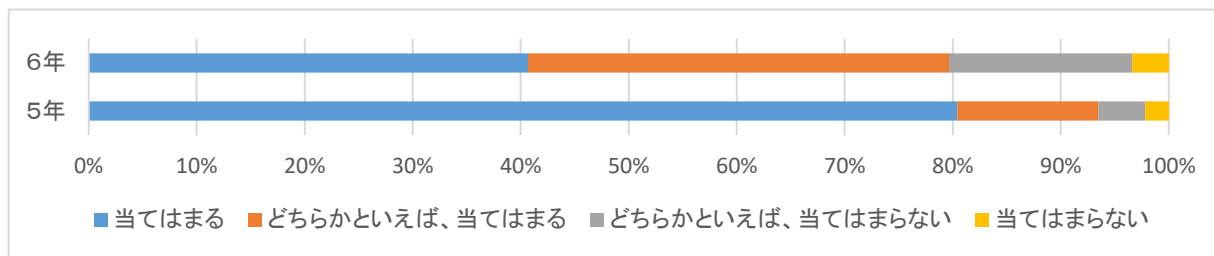


④ 5年生 英語で書かれた名前や教科書に出てくる言葉を読むことができる
6年生 教科書に書いてある英語の文を読むことができ意味がわかる



⑤5年生 アルファベットの大文字・小文字や簡単な単語を書くことができる

6年生 教科書や例文を見ながら、自分が伝えたいことについて英語で文を書くことができる



《成果》

- ・ALTに対して積極的に英語であいさつする姿がよく見られるようになった。
- ・低学年から外国語に親しんでいるので、外国語に対する抵抗が少なくなり、進んで聞いたり、相手に伝えたりしようとする児童が増えた。
- ・児童の外国語活動に対する興味・関心が高まり、外国語表現の慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が図られてきた。
- ・外国語活動の中で、様々な国の文化や様子について学んでいる。その成果として、児童は外国語を身近に感じたり、外国の生活の様子についての知識を得たりすることができた。
- ・単元の目標をしっかりと示すことで、子供たちが毎時間の授業に目的意識をもって取り組むことができるようになった。

《課題》

- ・個人差があり、なかなか自分から進んでコミュニケーションをとれない児童への支援策を考える必要がある。
- ・高学年になるにしたがい「書く活動」「話す活動」が増えてきたことから、楽しく外国語を学ぶことが難しくなってきたように感じる。